

平成 28 年度くるめ園事業報告

1 総括

平成 28 年度は「くるめ園改革」というテーマを掲げました。組織としては決定機関としての主任会議を明確に位置づけ、施設長を代表とする体制が確立されつつあります。日中活動については新たにカラオケクラブや映画鑑賞会を定期的実施、また外出支援や職員との散歩なども行事として計画的に実施することができました。更にご利用者の残存機能の維持や向上を図るため、機能訓練士によるリハビリを週 1 回実施、補装具の見直しなども積極的に行うことでより快適に過ごして頂くことができました。ケースカンファレンスについても既に二順目を迎え、更に内容の充実を図っていきます。一方で課題としては、労働環境の整備が不十分であることや日中活動などの利用者サービスについては十分とは言えず、今年度はその部分を意識して取り組んでいきます。

2 重点目標（又は課題）の成果と課題

重点目標（又は重点課題）	成果と課題
主任制度の検証を実施した上で組織体制の強化を図る。	主任会議の位置づけについても職員間では定着してきており、施設運営等の重要な課題や職員から上がってきた課題について討議を行い、その結果については速やかに職員へ周知しています。ただし予算関係については取り上げる機会が少なかつたため、平成 29 年度については予算の執行状況なども議題に入れていきます。
支援計画の見直しを図る。	ケースカンファレンスは月 2 回、定期的に開催しています。これまでの支援計画については抽象的な言葉が多く、再アセスメントも課題の達成度を確認しづらい内容でしたが、スーパーバイザーの助言などもあり、最近では職員からの意見も活発に出るようになり、支援計画も以前に比べて、より具体的な内容に変わってきました。今年度は 2 名のご利用者について福祉事務所を招いてケースカンファレンスを行いました。今後も可能な限りご利用者や実施機関にも参加して頂くつもりでいます。
日中支援の充実を図る。	専門職によるリハビリを週 1 回開催しています。これまでリハビリの見直しも 1 年に 1 回程度でしたが、現在では半年程度で見直しが行えるようになりました。カラオケに関しては、年間を通して 127 名の方が参加しました。映画鑑賞会についても 7 回開催し 66 名の方が参加しています。外出支援については 122 名の方がご利用され、利用者の要望を聞き取り外食や買い物などを楽しんでいただきました。既存のクラブ活動についても定期的開催してきましたが、ボランティ

	アの方の高齢化もあり今後はクラブ活動の見直しも必要となっ てきています。
コンプライアンスの徹底を 図る。	施設生活安心事業については、定着しております。また、検討 委員会による定期監査の助言を受け、適正な処理が行えていま す。 特にくるめ園の課題とされてきた接遇については力を入れ 9 月に権利擁護、11月には接遇に関して外部から講師を招き研修 を実施しました。またセルフチェックシートなども活用してくる め園の現状を職員に理解してもらいました。しかし、接遇面では 一部で不適切な面も散見されているため、平成 29 年度も上半期 を中心に人権についての研修を集中して実施していきます。ま た、職員間の内部牽制が機能するためにコミュニケーションの件 に特化した研修も実施していきます。
長期修繕・改築の検討を図 る。	まりも園地下倉庫や井水の使用についての話し合いをきっか けに、今後予想されるエレベーターや受電気（キュービクル）の 入れ替えについて本部・まりも園と定期的な協議をしていきたく と考えています。

3 その他の目標（又は課題）

目標（又は課題）	成果と課題
地域貢献	生活困窮者就労支援事業に登録し、4 名の方に就労の場を提供す ることができました。現在では 61 歳の方に清掃パートとして働い ていただいています。平成 29 年度においても引き続き一般就労に 向けた就労訓練の場を積極的に提供していきます。また、地域住民 の交流の場として沖縄三線教室を開催していますが、受講者が思う ように伸びなかったため平成 29 年度は周知方法を再考します。

4 事業実績

年間延べ利用者数、入院延べ日数、外泊日数、利用率、入・退所者数などを表にする。

	計	利用率	入院日数	入所	退所
4 月	1436	95.7%	64	0	0
5 月	1501	96.8%	49	0	0
6 月	1438	95.8%	62	0	0
7 月	1546	99.7%	4	2	2
8 月	1488	96%	62	0	0
9 月	1408	93.8%	92	0	0
10 月	1478	95.3%	71	0	0
11 月	1458	97.2%	42	0	0

12月	1514	97.6%	36	0	0
1月	1488	96%	62	1	1
2月	1344	96%	56	0	0
3月	1486	95.8%	66	66	1
計	17585	96.3%	666	5	4
27年度	17412	95.1	49	2	2

5 利用者の状況(平成29年3月31日現在)

施設入所者

	男性	女性	計
男女内訳	26名	24名	50名
平均年齢	61歳	67歳	64, 4歳
平均在所期間	13年 3月	19年 5月	16年 4月

6 利用者の身辺の自立の状況(平成29年3月31日現在)

1) 食事状況

区分	自立	一部介助	全介助	経管栄養	合計
男	2名	19名	4名	1名	26名
女	2名	12名	9名	1名	24名
計	4名	31名	13名	2名	50名

2) 排泄の状況

区分	自立	一部介助	全介助	合計	ポータブル 使用	おむつ使用
男	7名	6名	13名	26名	0名	14名
女	2名	9名	13名	24名	1名	14名
計	9名	13名	26名	50名	1名	28名

3) 入浴の状況

区分	一般浴槽			機械浴槽	合計
	自立	一部介助	全介助		
男	0名	6名	14名	6名	26名
女	0名	7名	12名	5名	24名
計	0名	13名	26名	11名	50名

4) 洗面等の状況

区分	洗面				更衣			
	自立	一部介助	全介助	合計	自立	一部介助	全介助	合計
男	6名	10名	10名	26名	9名	3名	14名	26名
女	5名	4名	15名	24名	7名	8名	9名	24名
計	11名	14名	25名	50名	16名	11名	23名	50名

5) 移動の状況

区分	歩行		歩行器	車椅子			合計
	自立	一部介助		自立	一部介助	全介助	合計
男	4名	0名	0名	9名	8名	5名	26名
女	1名	5名	2名	0名	8名	8名	24名
計	5名	5名	2名	9名	16名	13名	50名

7 職種別職員数(平成29年3月31日現在)

	常勤	非常勤	常勤 換算	再雇 用	常勤 換算	嘱託	常勤 換算	派遣	常勤 換算	職員 数計	常勤 換算
施設長	1									1	1
副施設長	1									1	1
生活指導員	3		3							3	3
介護職員	24	4	2.8					3	2.4	31	29.2
医務職員	2	1	0.6							3	2.6
事務職員	1	1	1	1	0.8					3	2.8
理学療法士						1	0.1			1	0.1
作業療法士											
言語聴覚士											
栄養士	1									1	1
調理員	3	3	1.5							6	4.5
運転手											
洗濯員											
医師						3	0.3			3	0.3
その他											
合計	36	9	8.9	1	0.8	4	0.4	3	2.4	53	45.5
昨年度	38	9	13.9	1	0.8	4	0.4	1	1	53	46.1

8 ボランティア・実習生の受け入れ人数

ボランティアの内容と人数

活動名		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
趣味 活動	生花の会	6	5	5	5	5	0	5	5	4	4	5	4	53
	料理クラブ	2	0	2	0	0	2				2	2	2	
	俳句の会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	園芸の会	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	4
	習字の会	2	2	2	2	0	2	2	2	0	2	2	2	20

	歌の会	0	2	2	0	0	0	0	0	0	2	2	0	8
	パソコンクラブ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
生活支援	散歩													
	外出支援													
その他	正月3が日										8			8
	1泊2日旅行		11											11
	新年会										13			13
合計														129

実習生の免許資格・実習期間

学校名	免許資格	実習期間	日数	人数
東京学芸大学	社会福祉士	8月9日～8月18日	8日	1名
日本福祉教育専門学校	社会福祉士	6月13日～7月14日	24日	1名
		8月22日～9月24日	24日	1名
日本福祉大学	社会福祉士	9月1日～10月4日	24日	1名
埼玉県立大学	社会福祉士	2月20日～3月13日	15日	1名
日本福祉教育専門学校	社会福祉士	2月20日～3月10日	15日	1名

9 事故報告

種別	件数	内容と対応
関係機関報告事故	2件	<p>1. 利用者間のトラブルによる骨折。以前より他害行為が見られていたため注意を払っていましたが、廊下ですれ違いざまに殴り掛かってしまいました。骨折については手術をしました。他害行為をしたご利用者については家族や実施機関と協議した結果、精神科への入院が決まり退所となりました。</p> <p>2. 無断外泊。普段から遠方まで散歩をされる方で、当日も朝食後、散歩に出掛けられましたが昼食時にも帰園せず、16時に警察に通報して行方不明の届けをしました。結局当日は帰園しなかったため翌日警察署へ行き、行方不明の手続が終了間際に帰園の知らせが入り届を取り下げました。</p>
施設対応事故	63件	<p>① 転倒関連 転倒 7件、転落 12件、滑落 1件（うち介護中の事故 7件）</p> <p>② 怪我関係</p>

		<p>内出血 1件、痣 1件、切傷 6件、擦傷 3件、表皮剥離 0件、捻挫 0件、熱傷 0件、(うち介護中の事故 6件)</p> <p>③ 服薬関連 誤薬 7件、服用忘れ 7件、飲みこぼれ 5件</p> <p>④ 食事関連 異食 0件、誤配膳 4件</p> <p>⑤ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨折 3件 (他利用者から殴打。移乗介護中。不明) ・誤嚥 1件 ・尿道カテーテル抜去 1件、 ・尿道カテーテル切断 1件 ・誤飲 (次亜塩素酸) 1件 ・無断外出 1件 ・お菓子を食べてしまった。1件
ヒヤリハット報告	174件	<p>事故報告の①～⑤の区分けで件数を記載する。</p> <p>①84件</p> <p>②2件</p> <p>③34件</p> <p>④18件</p> <p>⑤36件</p>

10 苦情

苦情申立月	苦情の内容	対応と結果
	<p>これまで第三者による苦情解決相談を隔月で実施してきましたが、12月より毎月1回開催しています。また、苦情解決相談記録をトータルリスク会議で取り上げ対応を検討しています。</p>	<p>苦情にまでは至りませんでした。職員という言葉遣いについての要望が散見されました。個別に名前が上がれば主任や園長が直接注意をしています。また平成29年度も接遇意識の向上のため研修を実施していきます。</p>

11 福祉サービス第三者評価の指摘に基づく改善状況

平成28年の「改善が望まれる点」の改善状況	
改善項目	内 容 (上欄は改善要望・下欄は改善の取り組み)
1 職員会議でより多くの意見が交換できるよう、効率的な会議運営を	<p>職員が業務を通して気づいたことや工夫について、職員会議、援助会議、日々の打ち合わせなどで報告・提案をすることで、互いに学びあえるよう努めている。職員会議では職員の提案などが行いやすい、自由に発言できる環境となっていたが、最近の職員会議では参加者が多くないこともあり以前のように活発な議論が展開できなくなりつつある。主任を配置したことで主任会議が開催で</p>

工夫したい	きるようになったが、現状の主任会議では職員の意見の吸い上げや反映がなされていない。主任会議と職員会議の特徴を明確にしたうえで双方が効率的に運営されるよう工夫したい。
改善状況	会議の在り方や多くの職員参加の工夫について検討中である。
2 利用者の安全・安心な暮らしを支援するため、実状に即したマニュアルの確立と活用が期待される。	年々利用者の障碍の重度化、加齢による心身機能の変化に伴い、職員業務の中で介護量が増加している。こうした状況を受け、昨年度より介護マニュアル・業務マニュアルの作成・見直しに取り組んでいる。実情に即したマニュアルの確立と活用により、利用者にとって安全・安心で、より満足度の高いサービスが提供されることを期待したい。
改善状況	一昨年度より介護マニュアル、業務マニュアルを作成し、一部、マニュアルは活用されている。しかし、利用者の介護マニュアルが活用されていない。また更新がされていないので今後どのように活用していくのか、また必要なマニュアルを整理、検討していきます。
3 職員の不適切な対応等が行われることのないよう、支援の在り方やコンプライアンス意識を施設全体で見直すことが必要な状況にある。	利用者に対する丁寧な言葉遣いや態度について日々の確認ができるよう、平成28年度も引き続いてケアワーカー室に標語を掲示しています。職員の利用者への言葉遣いや態度については、これまでの取り組みも踏まえてさらなる改善に取り組んでいこうという意向がある。一方で職員アンケートにおいては未だ職員の不適切な言動が残っていることが指摘されている。さらにこれに対し管理者が十分に対応できていないという声も挙げられている。もう一度、支援のあり方やコンプライアンスへの意識、職員への説明責任等を見直す必要があります。
改善状況	ここ数年利用者に対する言葉遣いや態度については指摘されている。毎年園内研修や職員自己点検表を利用して改善に向けて取り組んできたが、いまだに改善されていない。今年度も外部講師に障害者の人権等について講演してもらう予定を立てている。また主任副主任を中心に日頃から、利用者の対応に問題等があった場合、積極的に指導していくことを確認しました。